

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373500309		
法人名	有限会社 スピリッツ		
事業所名	グループホーム 淳厚苑		
所在地	岡山県津山市加茂町塔中105番地		
自己評価作成日	平成27年 6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3373500309-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成27年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> その人のペースで生活ができ、自分の個性を出せている。 自宅では落ち着かず家族が疲れてしまっていたが、ホームでの生活で、自分の場所が持てて笑顔となり、生活改善ができて家族も度々来られ安心できる。 職員も利用者も自分のしたい事はできる場であり、家族同様の生活ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成15年設立以来、毎年の正月に干支に合わせたモチーフで作品を利用者と職員が力を合わせて作り続けた。そして十二支が揃い隣接の特定施設と合同で作品展を開催して、地域の人々、ホームや施設とオーナーの病院等、多くの関係者が集まって、これら手作りの作品を見ながら地域との相互交流が出来た。12枚の干支はストローを一本一本手作りにして、毎年の動物をデザインし、その存在を具象化するために植物や風景を調和させ、カラフルで立体的に仕上げていく見事な作品群である。この展覧会を見ていると、作品に秘められた職員の皆様方のスピリッツが感じ取れる。母体の医院長、グループホームの管理者(現施設長)、ホームに従事してきた職員達が認知症の人達の尊厳を大切にしながらこのホームでの生活を家族として愛情を注いできた歴史の積み重ねを利用者の表情や語りから「真心で家族の味わい」という理念の裏付けを見ることが出来た。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・入り口に手作り理念を掲げ、毎日共有し、理念に近づけるよう努めている。	理念は、「真心で家族の味わい」と布製の手作りで真心が込められている。利用者同士は近く寄り添い、3人体制の職員が常時滞在して一体感がある。親戚のような雰囲気の中で利用者は明るく、笑顔がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・ホームを知ってもらう為、①幼稚園・保育園へ卒業プレゼントをする。(手作り人形) ②祭り神輿での交流 ③加茂郷フルマソン ④文化センター催し参加(観客との交流)カラオケ・やっこさ展	隣接の特定施設「蓉厚苑」との第一回作品展覧会には、地域にもチラシを届け参加を得ている。その中には地元中学生が下絵を描き、利用者職員が完成させた作品がある。ホームの創作品は地元の各種行事にも出展し、良いお付き合いが繋がっている。従来からの中学生や児童との交流は恒例化している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域ケア会議を利用し、知識を生かし支援方法、対応の仕方を広報している。 ・作品作りをし、生きがいをもち、地域の人々と交流の場を持つ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・防火訓練に実際参加してもらう。 ・現在起こっている問題を事前に報告し話し合う。 ・家族が出来るだけ参加できるように声かけを上手にする ・必ず面会してもらう	市高齢介護課、町内区長、市文化連盟会長、森林組合会長、包括支援センター、利用者とその家族、管理者が参加し、2ヶ月に一回実施している。市や委員が資料提供をした勉強会形式で進める事もある。家族は毎回2名から3名が出席し、災害時の手伝いの申し出など積極的な意見があり、多くの人々で訓練している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域ケア会議に参加し、市・各事業所と連携をとっている。 ・常に相談しながら協力を築いている。	市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しているのでホームのことはよく理解してもらっており、気軽に相談、助言ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・玄関には常に開放し、徘徊する人には寄り添うようケアをする。	このホームでは利用者はリビングに笑顔で寄り添い、不安顔は見当たらない。職員は常に利用者の仲間に入り、うなずいたり、一緒に歌ったり、さり気なくケアしたりして和やかである。新しい入所者の帰宅願望には特に寄り添い、一緒に外出することで落ち着いた生活が出来ている。身体拘束マニュアルを全職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体観察をし、変化に気付く目を持ち、会議でマニュアルをもとに話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化に伴い、次のサービス利用につなげるよう支援している。 ・家族問題・金銭問題により制度支援している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議や個別での説明をし、納得され同意してもらっている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議での意見は職員会議に於いて職員に伝え、運営に反映させている。 ・家族の意見は申し送りしながら、記録に入れながら全員に伝えて反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の来訪も多く、利用者ともよく接触している。家族の意見や希望は運営推進会議にも出席して意見を聞いたり、運営や消防訓練にも反映させている。 	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月一回の職員会議(全員参加)や毎日のミーティングで気付いた点や意見を聞き、話し合っ即反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者には若い職員が一年前に就任した。ケアマネジメントにも自分の考えや構想を持っていると見受けられるので、先輩の管理者や職員の意見もよく聞きながら今後のリーダーシップに期待できると感じた。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 ・毎年契約時に各人面接を行い、意見を話し合い、働きやすい職場にしている。 ・交付金の支給により職員のやりがいを見付ける。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 ・資格取得に向け情報提供したり勉強の仕方を協力している。 ・実践の中にアドバイスを入れながら実施。 ・施設内研修を月1回とり入れる 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している。 ・地域事業者の参加する研修に参加し、職員会議にて実践し、質の向上を目指している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所した時は特に不安であり色々な症状がみられる。出来るだけ1:1で対応し、一人ではないということに気付いてもらい、信頼を得るように努めている。 ・話しを聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所時は環境変化が大きく、家族は今迄の不安から開放されるが利用者は負担が増える。 ・家族の意見を聞き、相談しながら関係づくりをしている。 ・面会を出来るだけお願いする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・活動内容の写真ボードを展示し具体的に分かるものを示している(プライバシーに配慮しながら) ・困っている事を優先しながら楽しめるような対応をする。(1:1の対応により安心できるようにする)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で、できることをして協力し合える関係を保っている。(片付け、掃除、洗濯たたみ、料理手伝い等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・都合のつく限り来て頂き、リビングで他の利用者も交え話をしたり、家族の心配を少なくする為に「できる」事を報告して安心してもらい、良い関係を作るよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・行きつけの食料品店まで付き添い、買い物支援をしている。	このホームは加茂中心部にあり、ホームから一歩出れば自宅や地域との触れ合いが容易に出来る利用者も居る。また、近くの公民館、図書館や隣接の施設で馴染みの人と触れ合える環境に恵まれている。地域の行事や催しに作品を出展する等で交流も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り、利用者同士が楽しく過ごせるよう支援している。 ・テレビの風景を見て画像で楽しみ会話が弾む。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・次のケアマネージャーさんへつなげ、訪問したり、入院先へ見舞に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何回も繰り返し話をしたり、困難な場合は顔の表情や体の動きを見て把握している。	利用者同士の会話が弾んでいる。職員はさり気なく会話に参加し耳を傾けている。家族の心配を訴える利用者にはしっかり寄り添い、「心配じゃけん私が見て来てあげるけん…」「…そうしてもらったら有り難いわ」と安堵の表情を見せる利用者も居た。職員は日常の会話や表情から利用者の思いや意向を把握しようとしている。	利用者の日々が発する言葉から本人がどのような生活をしたら「安心して満足な生きがい」を実現できるのか、意向を職員で作りあげて欲しいと思う。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者との会話、面会者や家族のちょっとした事を把握している。 ・利用者の表情を見ながら把握もしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日の申し送り、毎月の職員会議、日誌、個人記録等により把握している。 ・全員が確認ノートに確認印を押している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月1回の会議や日々の工夫、家族の意見、運営推進会議での意見等を取り入れ作成している。	日々の申し送りや介護日誌、個人記録表を基に職員会議で話し合い、利用者の変化に合わせてながらアセスメント、モニタリングをして、管理者がプランを作成している。一人ひとりの状態に合わせた歩行用具を選び、転倒防止や歩行訓練をして生活機能向上につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・できること、できないことが日々変わる事があるが、小さな変化を見つけ、計画を変えて見る等反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出したい時には外出したりその時その時を大切にに対応する。1日に何回も外へ行く人もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・神社参拝やカラオケ大会に応援へ行った り、町文化展へ見学し協力している。 ・幼稚園、小学校運動会の見学も楽しむ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・病院が同一敷地内にある為、急変時や小さな変化も即対応出来る。 ・専門科(精神科)受診も継続し、季節時変化に対応出来るよう支援。 ・家族希望で独自の受診を支援する。	ホームの階下にオーナーの医院があり、かかりつけ医でもあるので、夜間、急変時にも速やかに対応してもらえ、利用者、家族にとっても大きな安心になっている。他科受診は主治医が紹介状を書き、原則家族が付き添い、必要あれば職員も同行する。医療提携は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一敷地内に病院があるので、迅速、適切な対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・病院初診については家族に様子を伝え、付き添ってもらう。(利用者の状態は書面で渡す) ・1週間に1回見舞い、家族との話し合いの機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・夜間時、職員が一人となる為対応できないので、家族と話し合い、協力を求め夜間付き添いが可能であれば、話し合っの対応ができ支援可能である。 ・看取りも相談に応じている。	主治医がホームの階下であり、緊急時は夜間対応も得られているので、今後も家族の要請があれば看取りを行う方針である。ここ3~4年は看取りを実施した人はいないが、過去2名の経験はある。近年は、「夜間も家族が付き添いはするので、このホームで看取って欲しい」という家族の希望に沿って支援をしていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内研修において、急変時や事故発生時の勉強の時間を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に1回、総合訓練を実施している。職員会議において即対応出来るように訓練している。 ・土砂災害、地震時の対応も考え意識づけをしている	年一回は1階の医院と隣接の「特定施設」と三者合同で総合訓練を行い、三ヶ月に一回は2階ホームの構造や環境を考慮した独自の避難訓練を行っている。近くの3階建ての公共施設を避難場所の対象として、夜間帯の救援方法も話し合い、近隣の人の協力体制も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・自然体で、家族のようにその人に合わせて馴染みの会話で対応している。	リビングルームでの利用者の過ごし方にも工夫があり、仲良しグループ、寄り添いが必要な人、一人で静かに過ごしたい等、各々に適した生活をしている様子が伺える。適材適所でそれぞれの人格を尊重し、心づくしのケアをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・会話を大切にし、表情や顔色を見ながら自己決定を出来るようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日課にとらわれることなく本人の希望通り付き添い、外出等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ほつれやボタンが取れたり等を修理したり、汚れをとったり、重ね着の調整をしたり等、気付いた時に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・旬の食物(魚、野菜、果物等)の話をする。 ・楽しめるように目の前で調理したり、材料を切ったり皮を剥いたりして、意欲的に手を出せるよう工夫している。	週に一回はテーブルでホットプレートを使い、利用者と一緒に調理している。訪問日は焼きそばを作って楽しい一時を過ごしていた。誕生日には本人の希望を聞き、メニューも考えるそうだ。皆と一緒に食べる楽しさを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食べる時おかわりできるようにし、それぞれの利用者に対応し、野菜中心に栄養バランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、声かけをしている。出来ない方には介助し、出来る方には準備をして見守る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・チェック表にてパターンを共有し、利用者の力を活かし、トイレでの排泄に向け支援している。	次第に重症化していく現状ではあるが、利用者のそれぞれの状況に適した歩行具(手押し車等)を使用し、職員の適切な声掛け誘導により失禁を乗り越え、紙パンツから布パンツに移行できたこと、更に車椅子から手押し車に移行できたという事例を見ることができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・2日に1回の排便を目指し野菜中心に食事を出し、食前には運動をして支援している。 ・外出を増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・足浴、シャワー浴、清拭等、希望に応じて支援している。 ・本人の了解を得て、曜日を決めて伝えている。	週2回の入浴日を決めている。それ以外も特別に希望があれば受け入れ、夏場は回数を増やしたりしながら、臨機応変の対応で清潔面には配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活リズムを崩さないようにしながら休む時間を作り(昼)、安心して眠れるよう電気や冷暖房に注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員全員が理解できるように変化時には一覧記録をし、理解して薬の管理が出来るようにしている。 ・日々バイタルチェックをし、変化の確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・誕生日には好きな物を作り楽しみにしたり、ドライブに行ったり、散歩をしたりして楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・実施している。(近所・神社など) ・新緑、紅葉など天候に左右されるものは、タイミングを逃さないよう実施する。	敷地内の特定施設に向いたり、近くの図書館に本を見に出掛けている。天候の良い日には利用者より出掛けようという希望があると、ドライブに出かける事もある。四季を感じる外出も年間行事で出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物はするが、お金を払える人が今はいない。持っている人には支援できる体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・実施している。 (面会時パンフレットを渡し、いつでも電話しても良い事を説明している) ・手作り年賀状を自ら作成し発送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・実施している。 (空間が狭いが工夫している)	狭いながらも楽しい我が家と言えるリビングルームである。テーブルやソファの配置と利用者同士の間柄を考慮して会話が弾み、歌を唄い、ゲームをして楽しく過ごしている。勿論、一番楽しいのは食事時間である。長い一直線の廊下はリハビリの場であり、時にはボーリングゲーム等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファを2ヶ所置き、仲良し同士が話ができ、友達同士がお互いの部屋で話したり、一人でベットの中で雑誌を読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・持ち込み自由であり、使い慣れたものをボロボロになるまで持ち安心できるようにしている。 ・リサイクルをして使用を継続する方法をとっている。	備え付けのベッドと脇机があり、一間の押入れがある分、各部屋は整然として広さを確保できている。孫やひ孫が居室と一緒に過ごす人も居る。廊下には談話室や椅子を配置してあるのでプライベートに利用する事も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・実施している (直線廊下を工夫している)		